

島の医療を担う責任感と覚悟

今年の1月15日から約1か月間、佐渡総合病院で総合診療学の臨床実習をさせていただきました。各科の外来実習、特に興味があった小児科での実習、そして地域の診療所への出張診療、往診にも同行させていただきました。

外来実習では、問診や診察、そして採血などの手技が体験できました。例えば、完全房室ブロックでうっ血性心不全をきたしている患者さんに一時的ペースメーカーを植え込むと日に日に症状が改善していくのを見ることが出来ました。実際にその変化を見ることが出来たのはとても貴重な経験になりました。

小児科での実習では外来の他に乳幼児健診を見学させていただきました。泣いていた乳児を抱きかかえた時に、澄み切った目でこちらを見てきたときは何とも言えないあたたかい気持ちになりました。

診療所での地域に密着した医療も見学できました。診察では西洋医学的知見だけでなく東洋医学的な診察も用い、時に漢方を処方するなど、幅広い知識と経験から患者に最善の薬で治療をする姿はとても印象的でした。

佐渡総合病院ではどの先生方も、この病院が島の最後の砦であり、ここで島の全ての患者を診る、という責任感と覚悟をもって医療に当たっていたと思います。患者のこれからの人生を共に背負う責任と覚悟を持ち、患者に寄り添った医療を提供できるように、今後も精進していきたいと思いました。

1か月間、とても充実した毎日を過ごすことが出来ました。お忙しい中熱心に教えてくださった先生方に感謝申し上げます。大変お世話になりました。ありがとうございました。